

通常の学級における包摂力のある好事例

【キーワード】	書きの困難さ、感情コントロールの困難さ、物の管理
【学校、学年】	小学校 【 1 】年
【状況、様子 等】	<p>○学級の状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級全体としては、発表等を意欲的に行ったり、大きな声で挨拶したりする活発な児童が多く在籍していた。その一方、場面の切り替えが難しかったり、物の管理が苦手だったりする児童も多数在籍する状況があった。 <p>○児童A、Bの様子等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童Aを含む数人は、平仮名や片仮名、数字の書きに困難さがあり、授業中に机上での手遊びが多く見られた。 ・児童Bは、感情コントロールが苦手で、気分が高揚すると大きな声を出したり、物にあたりたりする様子が見られた。
【対応・工夫】 支援、 合理的配慮、 基礎的環境整備、 学級経営、 支援体制 等	<p>○学級全体への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室の前面は必要な物のみ掲示したり、普段使用しないロッカーにはカーテンなどで目隠したりして教室環境を整備した。(学級経営、ユニバーサルデザインの視点) ・クラスを4チームに色分け(ピンク・青・黄・緑)し、1年通して整列や掃除場所などをチームごとに行うことにした。【※写真1】また、ロッカーや靴箱もチームの色で示すことで、自分の場所を分かりやすくした。【※写真2】(学級経営、ユニバーサルデザインの視点) <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="427 981 951 1370" style="text-align: center;">  <p>【※写真1】</p> </div> <div data-bbox="959 981 1482 1370" style="text-align: center;">  <p>【※写真2】</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の学習机に筆記用具を置く場所を示すテープを貼り、物の置き場を明確に示した。また、机上に出しておく物(鉛筆・赤青鉛筆・消しゴム・定規)を指定し、刺激量の調整を行った。(学級経営、ユニバーサルデザインの視点) ・国語、算数はノートと同じマス数で板書した。(ユニバーサルデザインの視点) ・周囲の影響を受けやすい児童は前方の座席にするなど、座席配置の工夫を行った。(学級経営) ・特別支援教育支援員とは、授業の合間に支援方法を具体的に共有して連携を図った。(支援体制) <p>○書きに困難を示す児童(児童Aを含む)への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段階的に書きの支援を行った。(支援、合理的配慮) <ol style="list-style-type: none"> ①書き出しの文字を記入: ノートにめあてやまとめを書く際、書き出しの文字だけを教師が記入した。 ②書く場所を枠で示す: どこに書けばよいか分かりやすいように、ノートに枠を書いて示した。 ③なぞり書き: 児童がなぞり書きでノートを取れるように、マーカーペンで文字を記入した(鉛筆、赤青鉛筆の色に合わせてマーカーも色分け)。

○感情コントロールに困難を示す児童（児童B）への支援

- ・気分が高まったときには段ボールハウスを使用する（中に入る）ことを認めた。【※写真3】その際、使用する際には教師に必ず伝えることや使用時間を決めることなど、使用のルールを明確に設定した。（支援、合理的配慮）



【※写真3】

【結果、変容 等】

- ・ユニバーサルデザインの視点に基づく教室環境を整備したことで、指示が通りやすくなり学習規律を確立させることができた。また、課題であった物の管理についても、明確に場所を示すことで、少しずつ自分たちで管理できるようになっていった。
- ・書きが困難な児童に対して様々な支援を行うことで、書くことができたという達成感が生まれ、意欲的に学習に取り組むようになった。また、なぞり書きを行っていた児童が枠囲みの支援を選ぶようになるなど、支援の量が減ったり、支援を必要としなくなったりする様子も見られた。
- ・感情コントロールに困難さのある児童に対してクールダウンの場を保障することで、短時間で切り替えができるようになり教室に戻って学習活動に取り組むことができるようになった。